



世界を知る ～It know the world～

このページでは、「世界を知る」をテーマに独立行政法人国際協力機構(JICA)デスク熊本や、国際交流・協力分野で活躍している皆さんのご協力を得て、日本で生活する私たちには日常知ることができない興味深い世界の状況を紹介しします。

憎しみは憎しみによって止まず、ただ愛によってのみ止む

青年海外協力隊 OG 川口 純子さん

(平成 25 年 1 月～平成 27 年 1 月 スリランカ派遣 職種：環境教育)

日本から直行便で約 10 時間。インド洋に浮かぶ常夏の小国スリランカは、原始仏教の教えがいまだ残る数少ない国。約 7 割が仏教徒とされ、日々「ピン」と呼ばれる徳を積みながら、笑顔の耐えない穏やかな暮らしを営んでいます。



キャラニヤ寺院の様子（コロンボ市）

名前だけ聞いても私たち日本人には決して身近とは言えない国ですが、現在の日本はこの国のおかげで存在していると言っても過言ではないことをご存知でしょうか。

そのできごとは、第二次世界大戦後の 1951 年 9 月。日本の主権回復を巡って開かれたサンフランシスコ講和会議で、ひとりの若きスリランカ人政治家のスピーチによってもたらされました。

この会議に現在のスリランカ、当時のセイロンの代表として J. R. ジャヤワルダナ蔵相が出席していました。戦時中はセイロンも英国の支配下にあったため、日本から攻撃を受けていたからです。そのような立場にしながら、ジャヤワルダナ氏はこう言います。

「憎しみは憎しみによって止まず、ただ愛によってのみ止む」

仏教の法句経の一部を引用、日本に対する賠償請求を放棄しました。同じアジア人として欧米の支配下

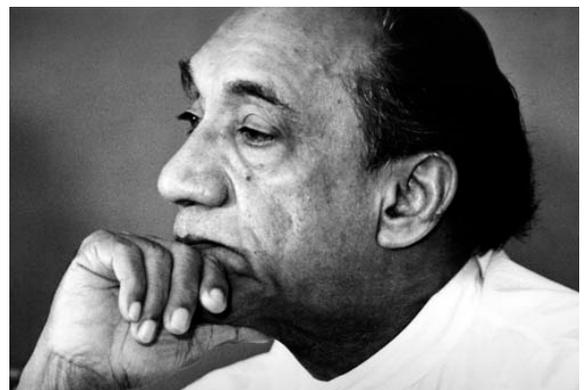
になることなく戦った日本を尊敬していたようですが、まずは同じ仏教国として長い歴史や文化を持った仲間だという強い思いがあったからこそ出来た決断だったのでしょう。

このスピーチは、会議に出席していた国々の賛同を得、日本が国際社会に復帰するきっかけとなったと言われています。

以来、日本とスリランカは断続的に友好関係を持ち、日本は ODA 支援も行っています。

スリランカでは皆このことを知っており、親日家も多いのですが、日本ではどうでしょう。私も協力隊に参加するまで、この事実を知りませんでした。自分の無知を情けなく思ったほどです。スリランカで過ごした 2 年の任期中、人々の優しさに触れるたびに気づけば『スリランカに恩返しを』と考えながら活動している自分がいました。

スリランカ、ジャヤワルダナ氏、そして仏教がつかないだこのあたたかい縁。そして希望をなかなか見出せない殺伐とした“いま”を生きるなかで得たこの縁。長い間つながってきたこの縁をさらに未来へつなげていくための生き方こそ、これから私がすべきことだと感じています。



J.R.ジャヤワルダナ氏

(出典：VivaLanka.com HP)